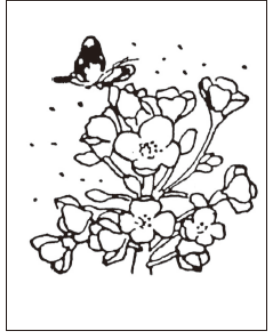


# 菜の花



サクラは咲き、モモは咲き、アンズの花も咲き、春うららかにかすみたなびくという田園風景の展開されるころ。

菜の花や月は来日は西に  
だれでも知っている蕪村の名句、いかにも画家の向らしい雄大な構図は万葉歌を思わせる。蕪村は徳川吉宗が八代将軍になった享保元年に生まれている。吉宗は新田開発を奨励し、耕地面積は飛躍的に拡大した。また幕府は農家の副業を奨励し、菜の花が散った後の種からしぼる油は灯火用として貴重な商品作物としてのしあがった。稲の裏作に大量に栽培された。葉は間引いて食用になり、根は飢饉(ききん)のときの助けになった。春先の日本は黄色で埋まっていたという。

菜の花や登一しきり海音  
菜の花に旅の終りの眼を洗ふ。 勝又星津花の昔の書物には、菜の花の形容として「菜花金を布(し)く」「黄なる絹をしけるがごとし」などの表現があります。

種子から油をとるのでアブラナ(油菜)といひ、ナタネ(菜種)の菜の花という。中国から渡来し、古くから、日本各地で栽培されてきた。高さは1.5mほどで、茎の先端に密集させて花をつける。開花は下

養正会薬局 (鍵山)

# 民間療法

## 動脈をしようぶにする

長寿のシンボルである松。その松葉は昔から中風や卒中の予防薬としてよく用いられた。

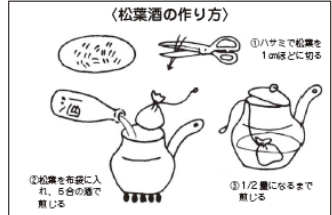
## 松葉酒

— 脳卒中の予防に —

薬用となるのはアカマツの若葉で、40本くらいを水洗いし、生のままよくかんで汁を飲み、カスは出します。

民間薬として有名なのは、松葉酒。卒中の予防以外に常飲すれば、不眠症、不眠症、食欲不振にも効きます。

【用法】  
松葉20gを1cmに刻み、布袋に入れます。これを5合(900cc)のお酒に入れて火にかけて、1/2量になるまで煎じます。これを毎食後杯に1杯ずつ飲みます。



(松葉酒の作り方)

【用法】  
30〜40gの根こんぶを刻み、どんぶりに入れて、湯冷ましを八分目まで注ぎ、一晚つけます。これを適宜、飲用してください。

【用法】  
陰干したドクダミ(莖、葉、花)10〜20gを600ccの水で半量に煎じ、1日3回に分けて食後に飲用してください。

【用法】  
クコの葉10gを400ccの水に入れ、半量になるまで煮つくと、1日3回に分けて飲用します。

## 手技療法

### 動脈の新陳代謝を促す

## 「天柱・風池」

「天柱」は、うなじの太い2本の筋の上、髪の毛の生えざわにあり、膀胱経に属します。「風池」は、「天柱」より1.5cmのところにあります。



# 子どもの病氣シリーズ

## 発熱



こどもの病気の症状の中で、最もよく見られ、お母さんを心配させるのが発熱です。こどもの発熱の原因は、呼吸器系の感染症によるものが最も多く、風邪、気管支炎、肺炎、中耳炎などがよく知られています。ウイルス性の伝染病では、インフルエンザ、はしか、麻疹、突発性疹、水ぼうそう、おたふくかぜ、手足口病、溶連菌感染症などがあります。また、気がつきにくい所では、尿路感染症でも高い熱が出ます。中には疲れや、精神的に不安定な状態でも熱が出る場合があります。

体温は、熱の産生と放散によって調節され、脳の視床下部というところが調節を司っています。体温はいつも同じではなく、朝は低く、午後から夕方にかけて上昇するのが普通です。二歳以下のこどもではこの変動は小さいのですが、六歳以上になると一度くらい変わる子もいます。平熱は、それぞれのこどもで違うので日頃から我が子の平熱を知っておくことは必要です。

最近平熱が36度を切る子が多く見られます。新陳代謝の機能が落ちて、元気が出ない、疲れやすいと訴えます。朝食をとらないこどもも多いようです。脳や体を目覚めさせるために朝食をとること、こどもは、熱を出すことからだの代謝が元進し、疲れまです。脈拍も早くなるため心臓の負担が増し、水分も、失われがちになり、熱のためにひきつけを起こすこどももあります。

養正会薬局 薬剤部